

**学校法人白梅学園
白梅学園短期大学
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

白梅学園短期大学の概要

設置者	学校法人 白梅学園
理事長名	小松 隆二
学長名	無藤 隆
A L O	瀧口 優
開設年月日	昭和32年4月1日
所在地	東京都小平市小川町1丁目830番地

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
福祉援助学科		80
保育科		130
心理学科		70
	合計	280

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	福祉専攻	40
	合計	40

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

白梅学園短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 7 月 14 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神「ヒューマニズムの精神」をかかげ、学生の指導や地域との連携において教職員が建学の理念を基本とした教育研究活動を展開している。教育の内容として、保育科、心理学科、福祉援助学科および専攻科福祉専攻があり、それぞれの学科で卒業研究ゼミナールという少人数教育を重視した授業に力を入れ、語学では習熟度別授業など進度に応じた指導が行われている。また、教養科目として「ヒューマニズム論」、「人間」をはじめ、生命、人間、社会などの領域で、建学の精神や教育理念を反映した豊富な科目が開講されている。

保健センター室には専任の保健師と看護師が配置され、学生相談室では専任のカウンセラーが配置されているなど、学生生活全般に対する支援体制は充分とられている。

平成 14 年度より学生による授業評価が実施されており、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動も進められている。特に、学生への開示は評価できる。

平成 18 年度特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）にも採択された「子育て広場」の取組みは、学生の教育活動としても、また地域社会に対する貢献としても高く評価できる。

保育科、福祉援助学科の専門就職率は高いレベルにある。

推薦入学者に対する入学前の学習支援指導の実施や、入学試験問題の外部評価による改善努力は高く評価できる。

教員の研究活動は個人・共同研究ともに活発であり、国際会議への教員の出席状況や海外教育機関との交流も活発に行われている。

事務部門の業務は適切に処理され、スタッフ・ディベロップメント（SD）活動も全部署の事務職員で取り組む姿勢がうかがえる。

施設設備面から学生の教育環境をみると、図書館の蔵書は歴史を感じるものから現代のものまで適切に整備されており、教育研究および授業用の施設設備や学生生活のための施設設備も充実している。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 教育理念については、学生便覧、オリエンテーションなどでの周知に加え、5月には学科別に1泊合宿のオリエンテーションゼミナールが実施され、学生と教員、学生同士によって建学の精神を具現化するようなテーマによる分科会が行われ、教育理念の確立への努力がなされている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教養科目として「ヒューマニズム論」、「人間」をはじめ、生命、人間、社会などの領域で、建学の精神や教育理念を反映した豊富な科目が開講されている。
- 平成18年度特色GPに採択された「子育て広場」における地域社会での実践を活用して、独自性を発揮した「子育て広場特論」を開講している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 保育科においては実習指導担当者としての2名の助教をはじめ、カウンセラー、コンピュータアシスタントなどが配置され、教育の実施を支援する体制が整えられている。
- 図書館では、学生の実習中など必要な時は、閉館日でも申請により特別に開館するなど柔軟な対応をとっている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 学生の授業評価に対する教員からのコメントを含めて、結果を学生に報告していることは授業の質を高めることに役立っている。
- 保育科、福祉援助学科とも専門職への就職率が高く、教育に対する卒業生満足度も、両学科とも9割と高い。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学前の学習支援として、入学式前に入学予定者を登校させ、学習技術および高等学校教育の復習などを含めた学習・学生支援を行っている。

評価領域Ⅵ 研究

- 教育・福祉研究センターに予算配分・助成を行い、実践的教育研究活動の活性化を図っている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 「子育て広場」の取組みを通じて、行政機関や福祉施設などの協力要請にもよく対応し、地域社会に貢献している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスの書式を統一し、内容の改善を図る必要がある。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 現状では図書館の閲覧室が手狭であり、改善が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 卒業生や中途退学者に対する追跡調査を行って、教育改善へ向けた継続的な取り組みを行うことが望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 学校法人、短期大学の財務体質についてややかげりがみられるので、その改善に向けた努力が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該学園は、創立の柱を「女性と子どもの教育」とし、「人間を愛し、人間の価値を尊重するヒューマニズム精神」を建学の理想としている。保育科の教育研究の発展が顕著で地域社会との連携も充分果たされている。

保育科に加え、心理学科および福祉援助学科が設立されたことにより、全ての世代にわたる「人間尊重の精神」に基づいた教育研究が展開されている。建学の精神、教育理念はきわめて明瞭で教職員、学生への周知は勿論、研究、ボランティア活動を通して地域社会への貢献により時代に即した学園経営がなされ、十分に短期大学の任を果たしている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

短期大学共通の選択科目を「教養教育」として設置し、学生が学科別に学ぶ目標とあわせて総合、生命、人間、社会、外国語、体育、情報の組み合わせから選択できるように工夫されている。学科別には資格取得のための教育科目が充実している。さらに福祉援助学科には保育科や心理学科などの他学科受講制度があり、幼児から高齢者および障害者の人間性や心に関する学習ができるカリキュラム編成になっている。

また各学科独自の科目が設置され、保育科、福祉援助学科では少人数制ゼミナールが教育効果に寄与している。また心理学科では心理実験での統計学的手法やコンピュータ指導もあり、インターンシップ科目も準備され、実験を軸に体験的に学べるよう配慮されている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織などについては、学科ごとの専任教員数、短期大学全体の専任教員数とも、短期大学設置基準を上回っており、教員の研究は活発で、教員としての資格、資質とも充分であることから、人的な教育実施体制は整っていると見える。

校舎の一部は古く、耐震対策が必要となってくると思われるが、教育研究および授業用の施設設備や学生生活のための施設設備は充実しており、教育のための環境整備および活用も充分と判断できる。

図書館については、学生数に比べ閲覧室の規模について改善の余地があるものの、蔵書は適切に整備されており、図書検索システムは、コンピュータを10台ほど配置して利用に供している。図書館開館時間の延長や学生からの購入希望図書の受け入れなどの配慮もなされ、図書館は学習資源センターとしての役割を充分果たしていると考えられる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

各授業の単位認定は平成18年度から5段階評価が導入され、適切に行われている。また自己点検評価委員会を中心に実施してきた授業アンケートの中に「この授業について総合的に満足しているか」という項目を入れて、数値評価として結果を出している。全体的には、5段階評価の4段階にある。

退学者は学科による差が大きいですが、退学率の高い理由は、入学希望者の動機の問題にあることが分析されている。授業評価の結果についてのコメントの開示により、学生の要望に対応できる体制がとられている。

学科の伝統や専門性を反映して、学科間の専門就職に差が生じている。しかし保育科、福祉援助学科では、教育課程を通して幼稚園教諭、保育士、介護福祉士の資格をほぼ全員が取得し、心理学科では、訪問介護員（ホームヘルパー）2級研修、生きがい情報士認定証、ピアヘルパー認定試験受験資格について、希望者がほぼ全員取得しているというように差の縮小に努めている。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する支援では、入学前に課題に取り組ませることや、入学後2度のオリエンテーションやゼミナールという少人数の授業を取り入れるなど、きめ細かい指導や積極的な学生支援がみられる。

また、入学試験の公正さを維持するために、年度末に外部機関による問題と回答のチェックを行うなどの具体的な体制作りと改善努力は高く評価できる。

学習支援については、語学において習熟度別授業を行うことや、他の四年制大学への編入など意欲的な指導が図られている。実習指導センターや保健センターなども生活指導および学習指導に積極的に取り組み総合的な指導がみられる。

学生の健康管理・カウンセリングの体制が整備され、進路ガイダンスが定期的に関われるなど就職支援や手厚い学生支援が全学体制で行われている。

評価領域Ⅵ 研究

平成 18 年度、教育・福祉研究センターによる特別研究助成金が予算化され、重点的に予算配分を行って、実践的教育研究活動の活性化を図っている。教育、校務とならんで研究活動も教員としての重要な役割であり、その成果が学生や社会に還元されていくという確固たる信念の下、研究費に重きを置いている姿勢は評価できる。

過去 3 ヶ年の在籍教員による研究活動をみても、著作や論文ばかりでなく、現場の教職員や施設の指導者を対象とした講演も行い、国際的に活動する教員も多いなど、研究活動は活発である。

評価領域Ⅶ 社会的活動

特色 GP にも採択された「子育て広場」を介して、各学科がそれぞれの特色をいかしたテーマを持って、当該短期大学と地域、学生と市民との連携を深める活動を行っている。

学生による意欲的で多様な社会的活動の取組みに対し、短期大学として積極的にバックアップする環境を整備している。また、毎年、学生を海外教育機関と連携を取りながら派遣し、逆に発展途上国の海外教育機関の学生を招いて専門的知識の交流を深めるなど、互いに学び合う貴重な機会を設けている姿勢は高く評価できる。

評価領域Ⅷ 管理運営

法人部門の管理運営体制は理事会および評議員会のほか、学内理事による常務理事会を設置し、理事長のリーダーシップの下、きめ細かな運営が行われている。

教学部門との連携については、学長、事務局長などとの定期的な懇談、交流や意見交換を行うなど、密接な協調関係の維持に配慮がなされており、良好な運営体制が保たれている。また、定例および臨時教授会のほか、教員および事務局職員の幹部などとの連絡協議会が定期的開催されるなど、情報の共有や意思疎通が図られている。事務部門は事務分掌規程に則り業務処理を進めており、重要案件の決裁や危機管理的対応を要するものなどについても適切に処理している。また SD 活動においても、各課の組織目標や取組み方針などの設定に取り組んでいる。

人事管理については、学校法人および教職員間の相互理解が充分図られるよう教職員懇談会などの協議の場が設けられており、教員と事務職員が連携して実習や演習科目の支援体制を整備するなど、教職員の関係も密接である。健康管理、職場環境管理についても取り組んでいる。

評価領域Ⅸ 財務

予算編成から執行に至るまで綿密なシステムの確立と取組みの姿勢がある。特に事業計画の策定とともに、毎年ゼロベース予算からの積み上げ方式による要求書の作成

や予算調整の各プロセスなどに、特徴として現れていると思われる。また資金管理についても堅実な状況認識の姿勢がうかがえる。外部監査も回数多く行われており、財務内容の公開についても適切と考えられる。

財務体質については多少の課題が見受けられるが、さらに適切な改善方策がとられれば回復すると考える。

評価領域X 改革・改善

自己点検評価委員会規程に基づく委員会の設置と学長指名による委員編成に加え、改革・改善へ意識を全学的に共有するようなシステムが整備されている。特に特定の教職員だけではなく、組織的に関与するような体制作りが行われている。

相互評価・外部評価についても積極的な導入姿勢がみられる。